

第23回世界スカウトジャンボリー 2015年 日本開催

主会場 山口県山口市きらら浜

23rd
WORLD SCOUT
JAMBOREE
MONDIAL
2015
JAPAN



和
a Spirit of Unity



財団法人

ボーイスカウト日本連盟

和 *a Spirit of Unity*

世界スカウトジャンボリーは、4年に1度開かれる世界スカウト機構主催のスカウトの大会です。
世界スカウト機構は、世界で約2,800万人が参画する世界最大の青少年運動組織です。
2015年に山口県・きらら浜で開催される予定の第23回世界スカウトジャンボリーには
世界160の国と地域から約3万人の青少年が集まり、
約2週間にわたって、キャンプをしながら「世界の仲間」と体験を共有します。

第23回世界スカウトジャンボリー概要

会期： 2015年7月27日（月）～8月8日（土）（予定）
会場： 山口県山口市・きらら浜 他
参加者： 世界160の国と地域から約3万人
参加対象者： 世界各国の14歳から17歳のスカウトと引率指導者
18歳以上のスタッフとして参加する指導者

プレ大会（アジア太平洋地域スカウトジャンボリー・第16回日本ジャンボリーとして開催）

2013年に「きらら浜」を中心に、2015年の世界スカウトジャンボリーのプログラムなどを
実際に展開する大会として開催します。



第23回世界スカウトジャンボリーのテーマは「和 : a Spirit of Unity」

「和」という漢字の持つ「調和」や「平和」、「ハーモニー」や「協調性」といったニュアンスをベースに、日本の持つ「和」の精神と、様々な伝統と最新技術の融合、平和への取り組み、環境や防災など、世界中から集まる青少年が体験しながら楽しみ学べる、日本ならではのプログラムを提供します。

助け合い、認め合う

参加者は世界中から集まる仲間たちと約2週間、
キャンプを通じて生活を共にします。
キャンプ生活という助け合いが必要な環境で
違いを超えてお互いを認め合う、貴重な経験です。



違いを超えて、向き合う

世界スカウトジャンボリーが他のイベントと大きく違うこと、
それは会場が世界の縮図となること、
食事や休み時間、買い物やトイレまで、そのすべてが教育プログラムであること、
そして子どもたちが主体であること。
様々な違いを超えて、自ら世界と向き合うことが求められます。



そして世界を学ぶ

行うことを通じて学ぶ。スカウト教育法の一つの柱です。
キャンプでの共同生活を通じて様々な文化も体験し、
国連機関や NGO、青少年団体などの協力も得て、環境や開発、平和や人権といった問題をも、
体験活動を通じて感じ、そして考え行動する、これが世界スカウトジャンボリーです。





世界に広がる スカウト運動

「ボーイスカウトという名前は聞いたことがあるけれど、何をしているかよく分からない。」
そんな声をよく聞きます。

スカウト運動は、野外活動や奉仕活動を通じて良き社会人を育てる社会教育運動です。少人数のグループで、様々な体験を通じて、協調性やリーダーシップ、責任を持って自らの考えを企画・実現し人に役立つ能力を育てる、これがスカウト運動の目的です。

とかく最近の青少年は、コミュニケーションがとれない、行動力が足りない、想像力がない、提案ができない、そんなことを言われますが、スカウトは違います。普段の活動はやりたいことを実現させることが基本です。ですから、新しくやってみたいことを想像する力、自分がやりたいことを企画としてまとめる力、潜むリスクを考える力をしっかりと身につけています。

このような力は、自然の中での仲間との活動や、地域の人々との活動を通じて身につきます。年の近い先輩や仲間、訓練を受けた成人の指導者が見守っている中で活動するので、子どもたちはのびのびとやりたいことに挑戦し、失敗することができるのです。ボーイスカウトの代名詞とも言える野外活動と奉仕活動は、仲間との協力の大切さを学び、想像力をはぐくみ、様々な経験を通して学んでいく、青少年のための最高の教室なのです。

世界最大の青少年運動、スカウティング。

スカウトの仲間は世界中に2,800万人、OB・OGを含めると約3億人もの世界中に仲間がいます。みんな同じような経験をしているからこそ、初めて出会っても、すぐに打ち解けられる。それもスカウティングの魅力の一つです。そんな仲間たちの3万人が集結するのが世界スカウトジャンボリー。住む場所も、話す言葉も、文化や普段食べているものも違う「兄弟姉妹」と暮らす2週間は、10代の青少年が初めて世界の一員だと感じる場になります。

2週間の共同生活の中で子どもたちは、言葉が通じなかったり、時間の感覚が違ったり、物事の考え方が違ったりと、様々な違いを体験し、そんな中で次第に違いを超え、協力し、分かり合っていけます。言葉や文化、習慣など、これまで生きてきた背景は異なっても、共に遊び、共に暮らし、励まし合って過ごす2週間の体験は、彼らにとって大きな自信となり、大きな世界へ羽ばたいていきます。

彼らはその思い出を、経験を、そしてその自信を、家族や仲間のもとへ持ち帰り、きっと「和」の心を広げてくれます。新しい友だちとの出会いや、世界スカウトジャンボリーで学んだ環境、人権、平和などへの取り組みや、日本でのすばらしい思い出を、世界中に広げるメッセンジャーとなるのです。

2015年の世界スカウトジャンボリーは、様々な「和」を生み出し、未来へとつなげる、出発点になります。

スカウティングは教育です。

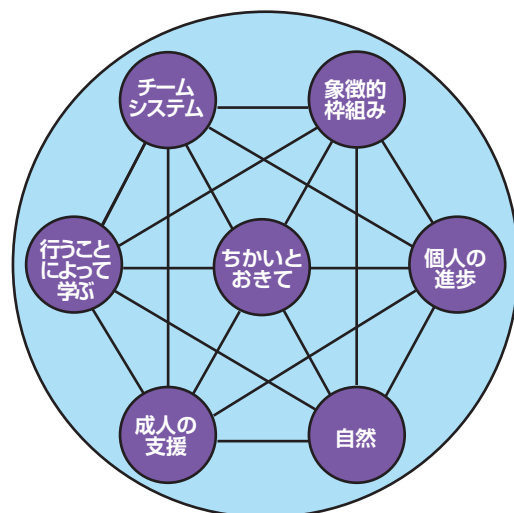
「教育」というと、どうしても学校の教室で行われる授業をイメージしてしまうかもしれませんが、しかし何もそれだけが教育ではありません。

スカウト運動は、自然や地域社会を教室に、変化の激しいこれからの時代をしっかり乗り越えられる「生きる力」を身につける「教育」活動。もちろん、教育と言うからには、その背景にはしっかりとした教育法や理念があります。

その根幹をなすのが「スカウト教育法」という独自のシステムです。

自らを律する「ちかいとおきて」、責任を分担し協力する少人数の班による「チームシステム」、行動することを重視する「行うことによって学ぶ」、様々な体験や想像力を生み出す「自然」との関わり、必要な時に行われる「成人の支援」、論理的思考を体験していく「象徴的な枠組み」、そして一人一人の目標を達成していく「個人の進歩」、これら7つの基本要素からなっています。

これらのスカウト運動を支える基本的な枠組みをきちんと学んだボランティアの成人指導者が、世界中で青少年の成長を支えているのです。

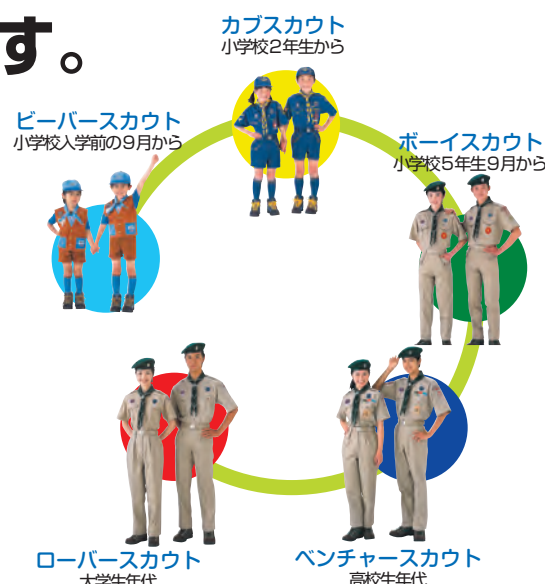


日本にも16万人の仲間がいます。

1907年にイギリスで始まって以来、世界では100年以上にわたって続けられているスカウト運動。日本では1908年に始まり、以来多くの青少年が参加しています。現在では5歳から26歳までの5つの年齢別部門と、成人指導者、併せて約16万人の加盟員が日本全国で活動しています。

「ボーイスカウト」というと、どうしても男の子だけの活動のように思われがちですが、現在日本をはじめ多くの国では、男女ともに開かれた運動となっています。スカウト運動は、人種や宗教、性別や年齢などの区別なく、すべての青少年のための運動なのです。

すべてのスカウトは、活動に参加するときに公の場で約束をしています。ビーバースカウトであれば「よいことをします」、ボーイスカウト以上であれば「いつも他の人々を助けます」など、複数の約束事からなる「ちかい」と「おきて」を宣誓して、運動に加わっています。



自ら創る、より良い世界。

スカウト教育の柱は「人格」「健康」「知識・技能」「奉仕」の4つ。これらの4つの柱は相互に補完し合い、社会に貢献できる市民を育成します。

優れた人格は良き社会人の要件と言えますし、健康でなければ人の役に立つことはできず、また、いかに優れた人格と素晴らしい体を持っていても、直接役に立つ知識や技能がなければ人の役に立つことはできません。これらを備えた上で、奉仕の精神をもって生活することで、社会の役に立つことができると考えます。

スカウティングはこれらの概念を、年齢に応じて自ら考えさせるだけではなく、ゲームや遊び、野外活動などを通じて身につけるよう組み立てられた教育プログラムなのです。身につけたことを進んで人のために役立てられる社会人を育てる、それがスカウト運動です。

スカウト教育の柱と活動の例

人格 少人数の「班」などでのグループ活動、「ちかい」や「おきて」に基づく生活、野外での活動と仲間づくりなど

健康 キャンプやハイキングなどの野外活動を通じた体づくり、衛生や応急手当の知識など

知識・技能 興味に基づいて自ら学ぶ「バッジシステム」で野外活動から職業まで学べる

奉仕 募金活動や清掃活動への参加、野外活動で培ったスキルを用いた災害時などの奉仕、国際的な支援など



主会場 山口県・きらら浜

大会の主会場となる山口県・きらら浜は三方を瀬戸内海に面した温暖な土地で、スカウトたちにゆとりある広大なキャンプサイトを提供することができます。

会場周辺には、場内にある自然観察公園の他に、秋吉台国定公園などがあり、また瀬戸内工業地域や北九州工業地帯の産業施設や産業遺産、さらには広島市の平和関連施設など、大会の前後も含め、世界中から日本を訪れるスカウトたちに非常に多くの側面から日本を学んでもらうことができます。

大会の期間中、参加者はそれぞれ10人一組の班に分かれ「サブキャンプエリア」で、様々な国からの参加者たちと共に生活することになります。様々な背景を持つ参加者が共生するきらら浜での生活やプログラムは、異文化を理解し世界中に友だちの輪を広げる、ジャンボリーの体験の中でも大きな部分を占めます。

世界から3万人が集まるということ。

世界には多くの国があります。そのすべての国のすべての子どもたちが、日本で開催される世界スカウトジャンボリーに参加するための交通費や参加費を負担できるというわけではありません。

少しでも多くの子どもたちが、この素晴らしい機会に参画するチャンスをつくりたい。

そんな想いから、第23回世界スカウトジャンボリーでは、発展途上国からの子どもたちを中心に1か国1班（参加者9人＋指導者1人）の参加を目標に、参加費・交通費を支援する基金「オペレーション・きらら」の運営や、世界各地と大会会場を中継で結び、様々な形で大会で行われているプログラムを体験してもらう「ジョイン・イン・ジャンボリー」プログラム、そして海外から来てもらった参加者たちに日本各地を見てもらい、ホームステイなどを通じ、全国の子どもたちと世界の子どもたちの交流の機会を生み出す「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクトなどを企画しています。

これらの想いを形にするには、多くの困難があることでしょう。しかし、未来へつながるプロジェクトだからこそ、ぜひ実現をしたいのです。ぜひ皆さんのご協力を、よろしくお願いいたします。

第23回世界スカウトジャンボリーは日本の青少年教育発展に貢献します

いじめ、不登校、学級崩壊、少年非行など、青少年の問題行動が顕在化・社会問題化し、国を挙げて青少年教育に取り組まなければなりません。青少年の健全育成に向けて、スカウト教育は長年にわたりその一翼を担ってきました。とくに青少年教育では、学校外での教育活動としてその特色を活かして、多くの青少年が全国で活動しています。

ボーイスカウト日本連盟は、第23回世界スカウトジャンボリーを日本における青少年教育の場としても位置づけ、この青少年の世界的なイベントをきっかけとして、スカウト関係者は勿論、学校や家庭、地域との連携を深めることが重要と考えています。また、他の青少年団体や機関との連携、協力を深め、日本における青少年教育の先導的な役割を果たし、この世界スカウトジャンボリーを成功させたいと考えています。

プログラムの柱は環境、平和、開発。

2015年は国連などが提唱する「ミレニアム開発目標」の達成目標年です。また日本が提唱した「持続可能な発展のための教育の10年」の最終年でもあります。このような節目の年に日本で行われる第23回世界スカウトジャンボリーでは、ぜひ、日本ならではの環境や平和、そして開発といった取り組みを紹介したいと考えています。最新の環境技術や災害の多い日本で培われた防災ノウハウなど、日本だからできるプログラムを展開します。



環 境

環境問題は今「まったなし」の課題です。世界中で一人でも多くの人々が意識を持って行動を変えなければなりません。

世界スカウトジャンボリーに集まる世界中の子どもたちや、関連行事に参加する子どもたちが、体験をもとに、各地で家族や友人、そして地域社会を巻き込んで環境保護に取り組めば大きな力となります。



平 和

世界で唯一の被爆国、日本で行われる第23回世界スカウトジャンボリーでは、大会史上初の試みとなる「ピースフォーラム」を開催します。

終戦から70年を迎える広島でのピースフォーラムを中心に、平和について考えるプログラムも多く提供し、今後に向けて行動することが期待されます。



開 発

環境や平和とも、密接に関わる開発についての取り組み。日本ではあまり注目されませんが、貧富の格差や人間開発など、世界的には非常に大きなトピックです。

様々な地域の様々な課題について考えることで、地球市民としての広い視野を養い、自分たちの生活や社会を良くする青少年を育成する、大きな機会となります。

第23回世界スカウトジャンボリーの主なプログラム

地球開発村

世界が一緒になって考えなければならない問題、例えば環境や開発、人権、食料、教育といった課題について、NGOや専門機関の協力を得て、参加者が共に考え、行動につなげるプログラムです。

広島ピースフォーラム

今回の大会の目玉の一つが、広島で行うピースフォーラムです。

終戦から70年を迎える広島で、世界中からの参加者が平和について語り合うピースフォーラムは、普通の子供たちが集まって、それぞれが平和について考え、語る、未来への大きなきっかけづくりになります。

地域奉仕活動

会場周辺での奉仕活動はジャンボリーをホストしていただいた地域への感謝と、交流を兼ねた重要なプログラムです。

水上活動

会場の目の前に広がる美しい瀬戸内の海などで行う予定の水に親しむプログラムでは、単に遊ぶだけではなく、水の怖さや大切さも併せて学ぶことができます。

自然探求

周辺に広がる里山などでのハイキングや、自然観察公園でのバードウォッチングなど、開催地の自然に触れる活動を行います。

科学体験都市

科学は日常生活や技術の発展に大きな役割を果たしています。科学体験都市は基礎科学から先端技術まで、実験や実物など実体験を通じて科学を楽しみながら学べるプログラムです。

全体行事

世界スカウトジャンボリーでもっとも盛り上がるものの一つが、全員が集まるアリーナでのイベントです。

文化の交差点

世界中から集まった参加者が、食事や音楽、民族衣装などを紹介しあうことで、様々な文化を体験できます。



大会開催までの予定



2010年7・8月

第15回日本ジャンボリー



2011年1月

第39回世界スカウト会議（ブラジル）



2011年7・8月

第22回世界スカウトジャンボリー（スウェーデン）



2013年7・8月

第23回世界スカウトジャンボリー・プレ大会
（第16回日本ジャンボリー・アジア太平洋地域スカウトジャンボリー）



2014年

第40回世界スカウト会議



2015年7・8月

第23回世界スカウトジャンボリー

2013年には2015年の第23回世界スカウトジャンボリーのプレ大会となる、「第16回日本ジャンボリー」を、「アジア太平洋地域スカウトジャンボリー」として行います。



第23回世界スカウトジャンボリーでは世界中の一人でも多くの青少年が、日本各地の、そして世界中の仲間たちと交流を持てるよう、各地での交流・体験プログラムを企画しています。

財団法人ボーイスカウト日本連盟 事務局国際部
第23回世界スカウトジャンボリーオフィス

2009年8月発行

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 4-11-10

電話 0422-31-5166 FAX 0422-31-5162

<http://www.23wsj.jp> 23wsj@scout.or.jp

<http://www.scout.or.jp>



第23回世界スカウトジャンボリーに関する詳細は
<http://www.23wsj.jp/>
をご参照ください。

財団法人 ボーイスカウト
日本連盟については
<http://www.scout.or.jp/>
をご覧ください。

